

平成18年度第2回尾張旭市交通問題懇話会

1 開催日時

平成18年5月26日（金）

開会 午前9時30分

閉会 正午

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂1

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

構成員：苅谷勝、伊藤寛、小川智子、荻原善夫、奥野昌明、加藤桃代、
田中悦子、林喜一、渡辺鎮夫、櫻井栄二、寺田千珠子、
日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

事務局：大橋邦弘、秋田誠、長江均、若杉博之、小川由香里、大和弘明

4 議題等

- (1) 第1回交通問題懇話会会議概要の確認について
- (2) 見直しルート案について
- (3) 本格運行の方向性について
- (4) その他

5 会議の要旨

部長あいさつ

5月16～19日の4日間見直しルートの試走を行いました。ご参加いただいた方につきましては、ありがとうございました。

平成18年度の役員交代のため、自治連合協議会から伊藤寛さん、福島晴彦さん、小中学校PTA連絡協議会から小川智子さんの3名の方に新たに構成員をお願いしました。前任者同様よろしく申し上げます。

(1) 第1回交通問題懇話会会議概要の確認について

(事務局)

概要については、前回出席者に事前に送付させてもらい、確認をしていたが、記載内容等に相違がなければ、市のホームページにおいて、公表させていただきたい。

(会長)

このホームページは全国的に見ていらっしゃる方がたくさんいます。特になければ公表していくということでお願いします。

(一同)

特になし。

(2) 見直しルート案について

(事務局)

ルート名については停留所等の名称を変えるだけでも費用がかかるので、できるだけ費用を安くするために、西、東、南についてはこれまでどおりの名称を使い、新たなルート（印場駅から東山町、西山町、庄南町等を通るルート）を南西ルートとしたいと思っている。

ルートや停留所については、試走後に皆様の意見を参考に修正をさせていただいた。全体としては好印象を持っていただいたと思っている。ただし、警察等の協議により変更の必要が出てくる場合もあるので、予め了承いただきたい。
・停留所の名称については、今回の見直しではこれまでのように所在地や公共の建物の名称を使用しているが、正式名称については本格運行時にまた検討したいと思う。

今回の見直し時期については、8月7日（月）から新しいルートで運行できるよう準備をしていきたい。

(構成員)

東ルートの⑥旭ヶ丘町山の手付近のルートについては、アンケート等を見ても外周道路を通った方がよいという意見が多かったように思う。

(会長)

現在は停留所が乗り降りの場所になっているが、将来的にいろいろなシステムが動き出したら、ルート沿線の住民の方との調整も必要になるかもしれない。

(構成員)

45分の枠内で運行しようとしているせいか、非常に細かいところへ入り込んでいるところがある。45分を40分にしたりしてもよいのではないか。市民からしてみると、今回の見直しは非常にありがたいと思うが、次回変更する場合はまた難しいと思う。

(会長)

細かいところへ入っていくと、車両の大型化があるので、そのことも考えていかなければならない。

(構成員)

タクシーが雨の日はなかなか来ないので、乗り継ぎをしたい場合に間に合うか心配してしまう。乗り継ぎ場所での調整時間がもっとあった方がよく、1分でも長く調整時間をとってもらった方がよい。西ルートの上りの場合は、保健センターより尾張旭駅に先に入るようになってよかった。

(構成員)

病人が乗って行くことを考えると、今より運行時間を短縮してほしい。せめて1時間に1本にしてほしいという意見も出ている。それとは逆に地域の人と待ち時間や車内でいろいろ話ができるという肯定的な意見もある。

(構成員)

山の手地区については非常に関心が高い。ルートや停留所については、地元が1週間ぐらい時間をもらって、意見を集約してからではいけないか。

(会長)

行政が一方的に決めることはないが、スケジュール的にどうか。

(構成員)

中には説明を受けたいという意見もある。地元での議論を踏まえた中で、意見をまとめることはできると思う。

(事務局)

説明会は今までも平子地区でやっているのだから、要望があれば行う。

(構成員)

ぜひ地元から提案をさせていただきたいので、持ち帰ってすぐ相談して回答します。

(構成員)

お年よりの中にはまだ知らない人が多いので、市役所でタクシー券を交付する際に、ジャンボタクシーの活用を勧めることはできないか。

(会長)

ぜひ一緒にPRをしていただきたい。

(構成員)

現在、西と東の利用者が1日100人ぐらいなのに対し、南ルートは50～60人程である。南西ルートを試走してみて、少ない南ルートが分かれたような形であるため、想像するに、南と南西ルートが50人を下回ってしまうのではないかと思うが、そうなった場合はどうするのか。税金を払っている市民のどれだけが乗っているかわからないが、このルートを喜ぶ人もいる反面、利用者の少なくなるのを危惧している。

(顧問)

当然そういうことはあり得る。今は感覚で物事を判断している。どういう指標やデータを取り、その結果を良しと判断するのか。タクシーについても何分で来るのかデータをとったりすることが必要だと思う。新たに調査しなければならないデータもあるだろうが、良くなっているのか悪くなっているのか、何らかの形でデータを取り続けていかないといけない。ルートの見直しが悪いことではなく、みなさんもこの見直しは良くなっていると思われているだろうが、市民のみなさんはデータがあった上で説明を受けないとわかりにくいのではないかな。また、停留所を自分たちで探して決めた例もたくさんあるし、停留所を地域できれいにしたりというように全国でもどんどん進んでいる。ぜひ地元の意見も聞いてほしい。

(事務局)

旭台地区では物干し台などを使って停留所を作っている。

(構成員)

バスを待っている間、座っていたいという意見が多いので、道路上では難しいと思うが、ベンチみたいなものを作ればPRにもなる。旭ヶ丘町山の手からアスカに買い物に行く場合にタクシーで行って、買い物中タクシーを待たせておいて、またそのタクシーに乗って帰る人が多い。今走っているこのバスについては真剣に考えなければならない。行政に言ってもお金がないと言われるので、今は自分たちでやっつけようという感じになっている。

(会長)

停留所については地域によっては、まだ検討するところがあるものの、全体としては事務局のルート案の方向で進めていくことでよろしいでしょうか。

(一同)
異議なし。

(3) 本格運行の方向性について

(事務局)

これまでに利用者や懇話会からの意見、要望も参考にしてサービス向上の方向性を整理し、その叩き台を作った。

まず、3つの基本的な考え方として、1点目、19年度中に本格運行に移行する。その切替えの時期は東ルートでミニバスを導入するときとする。2点目、皆さんで支えていただき進めていくための仕組み作りを行う。3点目、収支比率が試験運行開始時期15%、第1回目の見直し時期21%を参考に、今後は25%を達成できたならば次のサービス拡大局面に進んで行くという案にしている。

ルートについては、本年8月からの4ルートをベースにしていく。

停留所については、施設管理を地元委ねる仕組みを作っていくとともに、本格運行にふさわしいデザインなどを統一的に行った後、車両の増車などでダイヤにゆとりが生じたときに、停留所の間隔を短く再編できるか検討をしていきたい。

車両については、18年度10、11月に小型バスを試験的に東ルートに1台導入し、19年度に1台ミニバスを購入していけるよう事務を執っていきたい。また、車両の導入によってシステムのイメージが大きく変わると思われるので、道路環境を整えた上で、順次、各ルートに導入ができればと思っている。
・料金については、現行の収支比率が20%であるので、少なくともこれを維持し、2割の運行収支が確保できない状況が生じたときに見直しをしていきたいと考えている。

利用券については、8月から11枚綴り1,000円の回数券を発行してはどうかと考えている。

協賛、広告については、まずは車両に協賛者を掲示することとし、本格運行にあわせて順次拡大をしていきたいと思っている。

愛着性については、導入車両と一体的に名称やデザインを公募で決めていくためにも、今年度末から公募を開始して、初期の本格運行時にはそれらを決めて、必要な作業をしていきたい。

(会長)

ちょっと気になるのが収支比率25%という数字がルート別に見ると越えて

いるところもあるが、全体で見ると他のルートに足を引っ張られてしまい、市は“やらない基準”を設けてしまうことになる。“利用者の需要”という文言もはっきりしない。もっとわかりやすいシナリオを作してほしい。

(構成員)

タクシー券も引き続きやっていくのか。バスに関わらない人たちを引っ張り込むのに、無料パスを配れば利用率を上げることができ、浸透されていく。タクシーチケットをもらう人がバスの無料パスと選択できるようにしたらどうか。

(事務局)

利用したくても足が悪くて利用できない人もいる。バスに乗れる人はいいが、乗れない人はタクシーを利用しており、バスを利用したくても利用できない人はタクシーチケットが必要である。

(顧問)

一つのシステムで全てをカバーしようというのは無理であり、このシステムはどの部分のサービスをするのかという仕組みをきちんとしておかないといけない。100%のサービスをバスで達成しようとする長い期間がかかるし、できないかもしれない。この資料の本格運行については運行する側の方向性が示してあるだけであり、利用者側の方向性ではない。幹線道路でなければルート上の家の近くで乗降してもよい方法（フリー乗降）についても警察と協議するなど、この懇話会ではサービスを上げるような討論をしてはどうか。

(会長)

この場合は、利用者側の意見を出してもらいたい。フリー乗降については、全国的に過疎地域でよく行われている。路線バスでもやっているところがあるので、交通安全の関係で交通量の多いところは無理だが、裏通りで警察と協議がうまくいけば出来ることもある。

(構成員)

収支比率という考え方を教えてほしい。もし無料券等を配布して自由に乗り降りできるようであれば利用客があっても収支比率には関係しないのではないか。

(顧問)

収支比率が目標値になるのかということだが、乗車人数でいくのなら、利用

者数が何人で、そのうち無料の人が何人で、といった全体を捉えた上で初めて収支比率みたいな考え方が出てくる。例えば、利用者数の増加が無料の人で増えたことを評価できるのかというようなことを議論しなければならない。

(構成員)

25%の収支というのは既に市で試算されていると思うが、いまひとつわかりにくい。バスで何人乗ればいいのかを説明してもらった方がわかりやすい。

(会長)

利用者にわかりやすい指標で説明する必要がある。

(構成員)

回数券は11枚1,000円で決まりなのか。

(事務局)

叩き台であるので、この場でいろいろ意見をもらいたいと思っている。

(構成員)

ミニバスはどんなバスを想定しているのか。何人乗りなのか、環境に対してどうなのかなどを確認したい。

(顧問)

フラット部分が広いのは国産ではポンチョしかない。あとはドイツやヨーロッパ産になってしまう。外国産の車両はちょっと故障があるというのを聞く。外国産車両は金沢市や関東方面で導入しているが価格が高い。当初は1台2,500万円ほどしていた。

(構成員)

ポンチョに車椅子マークがついているが、あらかじめそういう仕様になっているのか。

(事務局)

ポンチョは狭い道路を走行できるように作られたような車両である。ロングタイプとショートタイプがあり、今考えているのはショートタイプの25人乗り(座席14人、立席10人、乗務員1人)を考えている。障害者にも配慮された車両である。定価だと約1,600万円なので、特装をすると2,000万円弱になるかと思われる。近隣では日進市がロングタイプを入れたので、事務

局でも見てこようと思っている。

(顧問) ロングタイプは乗降口が前と後ろに分かれているが、ショートタイプは扉が1つである。

(構成員)

試走で乗った車両(トヨタハイエース)と比べてどうなのか。試走車両から大きくなると狭い部分を通れるのか疑問である。

(事務局)

西ルートのどうだん亭から霞ヶ丘ふれあい会館の下の道は心配なので、この新しいタイプの車両が通れるかメーカーに確認してみる。

(構成員)

停留所についてだが、上りも下りも同じルートが書いてあるので、お年寄りにはわかりにくい。また、今度の見直しの際に直せばいいと思うが。

(顧問)

ムーバスの場合は停留所に黄色の5と大きく書いてあり、停留所名は小さく書いてある。それがいいか悪いかは別にして、尾張旭でやることとしていろいろな意見を出して行ってほしい。

(構成員)

本格運行に向けて交通空白地の解消と運行頻度の改善という2つの目標があった。叩き台では、運行頻度の改善がしばらく後になっているが、試験運行中は現状の追加タクシーの配車がある状態でいいのか。試験運行中に改善はできないのか。また、公共インフラということであれば、無料でもいいのではないかということになる。ただ、尾張旭市についてはみんなで支えていくという趣旨で100円の料金徴収を行っているので、その見直しをせず維持してもらいたいが、乗り継ぎ券を発行してもよいのではないか。障害を抱えた方への配慮も足りないのではないか。回数券よりもまずは乗り継ぎ券ではないかと思っている。あと、財源については国の助成などはないのか。

(会長)

国庫補助について説明していただけるとありがたい。

(事務局)

現在、国から自動車事故対策費補助金をもらっているが、これは試験運行期

間中に限られており、年間の運行経費の2分の1、1,000万円が上限である。それ以降の運行経費についての補助は、これからも勉強していく。

(構成員)

南部のルートは利用者が少ないのではないかということだが、現状は徐々にではあるが利用者が増えているので、長い目で見ていただければありがたい。それから、19年度は何月から本格運行なのか。

(事務局)

19年度中ということで、その中でも早い時期にと考えてはいるが、4月ではない。

(構成員)

3つばかり質問、お願いをしたいが、1つ目は試験運行の2か月間、小型バスを試験導入するというのはどういうバスか。2つ目は運行頻度で1時間30分に1本ではなく、出来るだけ早く1時間に1本にしてほしいが、叩き台では本格運行スタート時は1時間30分に1本となっている。その後、条件等が整理された後に1時間に1本に移行するよう読み取れるが、1時間に1本の運行を早く実現するにはどうしたらよいのか。最後に、8月7日から新しいルートが始まるわけだが、時刻表とルート図をなるべく早く住民の皆様に周知してほしいので、いつぐらいに各自治会に配られるのか教えてほしい。

(事務局)

小型バスについては、ポンチョで試行をしたいと思い、業者と接触しているが無理のようである。そのため、このサイズにできるだけ近い車両を運行业者に問い合わせている。時刻表については、道路管理者と警察に協議してからになるので、7月1日にお知らせできればベストであるが、7月15日にはお配りしたいと思っている。

運行頻度については、交通空白地を解消する目標の次に頻度を確保したいのが私たちの目標でもある。しかし、各ルート車両の増車を1台図るだけでも約1,500万円から2,000万円など、相当額の費用がかかってくる。まずはミニバスを導入して、その後、増車を考えていきたいので、本格運行移行時には厳しいためご了解いただきたい。

(構成員)

車両の増車によるか、ルート短縮の変更によるか、どちらがよいのか自分自身でもわからないところである。1時間に1本にすることが利用者の増員を図

ることになるのではないか。

(会長)

利用者の視点に立った改善策もお願いしたい。

(構成員)

利用料金についてはワンコインを維持してほしい。みんな最初から100円玉を握り締めて待っている。どういう形にしても維持してほしい。利用回数券については、回数券を発行する目的がよくわからない。1,000円で11枚なら1枚得する。乗り継ぎで使うなら1回だけしか得しないので、あまりメリットがわからない。

(会長)

プリペイドということで、買った時点で利用しなくても収入になる。回数券に広告を掲載したりもできるし、回数券の半分に路線図が載っていたりすると広報活動になるという役割もある。

(構成員)

収益を目的にしているのか、サービスを目的にしているのか。サービスを目的にしているのなら、障害者の無料を実施してほしい。健常者にサービスするのなら、障害者にささやかな優しさを差し上げたらよいと思う。

(事務局)

障害者だからあれもこれも無料だというよりも、障害者タクシーチケットサービスがあるので、本当に必要であればそちらのサービスをご利用いただきたい。

(会長)

顧問からも発言があったが、今の車両(ワゴン車)では障害者はあまり利用できないが、車両が大きくなれば、どんどん障害者に乗ってもらうためにも無料にしていく方向性というのはあってもよいのではないか。

(構成員)

交通弱者に優しいものであるならば、無料の方向でいくのが当たり前ではないか。

(構成員)

わずかながらでも優しくしてもらえれば、人間うれしいものである。

(会長)

懇話会の総意として、障害者に優しいものにしてほしい。

(構成員)

前回の見直しによって利用者が増えたからよかったが、運行頻度や時間帯を改善すれば、それだけ利用者は増えるだろうと思う。運行頻度については、やはりどうにかならないか。部分的でも構わないので、試験運行期間中にやらなければならないのではないかな。

(構成員)

交通空白地を解消することはかなり前進するが、運行頻度については、いろいろ進めるに当たっては指標が必要だということを言われたので、いかに実現させるかを考えて指標を決めてもらいたい。また、財源が必要になってくるのはわかる。例として、人口約53,000人の長野県須坂市では市民債を募って新しい事業を企画した。早く実現するために、市民のプラスになる新事業に対して債権を発行することを考えてもいいのではないかな。

(構成員)

4つのルートで乗車率が下がることになった場合は、1時間1本の試験運行をする予定があるかどうか。

(事務局)

30分ルートについてであれば1時間に1本も可能である。しかし、今の時点では交通空白地の解消を選んだわけで、構成員の方たちもそれをご承知の上で、まずはやってみようということになった。市としては4ルートに車両を増車していく考えであり、現実を考えるといっぺんに車両増車の方向へ持っていくのは難しい。まずはルートを固め、利用者が増えてきてから車両を増車していくというシナリオを考えている。

(会長)

懇話会の皆様には、まずは利用者が増えるようにということでご協力いただきたいと思う。

(4) その他

(事務局)

次回の開催は9月下旬を予定しています。内容は、見直し後の利用状況、小型バスの試験運行予定などのほか、愛称・デザインの決定方法などについてもご議論していただく予定です。

(構成員)

要望だが、ルート図と時刻表について、構成員には全戸配布するよりも早く渡してほしい。また、自治会には7月15日では遅いので、それよりも早く配布してほしい。